

# 景況レポート

(2月分・情報連絡員80名)

## 製造業がさらに悪化 ～景況DI値は低調に推移～

### 【概況(全体)】

2月分の県内景況は、前年同月と比較して景況が「好転」したとする向きが10.0%(前回調査8.8%)、「悪化」が37.5%(同37.5%)で、業界全体のDI値は-27.5となり、前月調査と比較し1.2ポイント上回った。

全国及び東北・北海道ブロックとの比較では、製造業の景況DI値が低調だったことから、全体の景況DI値は全国及び東北・北海道ブロックを2ヶ月連続で下回る結果となった。

### 【業界別の状況】

鉄鋼・金属が引き続き好調を維持しており、小売業で好転割合が増加した。その一方、食料品や印刷では苦戦を強いられており、繊維工業でも悪化割合が増加した。

原材料価格の高騰や需要の停滞等により収益が悪化している業界が目立つなど、今後の業況については引き続き慎重に見極めていく必要がある。

### <全国及び東北・北海道ブロックとの景況DI値の比較>

	秋田県	全 国	東北・北海道
全 体	-27.5	-24.3	-26.9
製 造 業	-37.5	-26.0	-29.0
非製造業	-20.9	-23.0	-25.7

### <景況天気図>

項目	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
業種							
製造業							
非製造業							

#### 【凡例】

快晴 30以上  
 晴れ 10以上 30未満  
 曇り △10以上 △30未満  
 雨 △30以上 △10未満  
 雷雨 △30以下

#### 【天気図の見方】

前年同月比のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

### 【業界の声】 ～製造業～

(回答数：32名 回答率：100%)

**食料品 (豆腐)** 業界全体が萎んでおり厳しい状況にある。秋田市内にある個人経営の豆腐屋が1件廃業予定であり、豆腐屋の減少が続いている。

**食料品 (菓子)** 原材料の仕入単価の上昇や個人消費の低迷など、厳しい状況が続いている。

**繊維工業 (ニット)** 夏物生産最盛期に入り各社とも昨年並みの受注は確保できている。しかし、相変わらず加工賃は上がらず、採算性の向上が難しい状況である。

**木材・木製品 (一般製材)** 冬場は県内需要が減少するが、関東方面からの注文は順調に推移している。しかし、2月1日からの製品の価格改定は据え置きのため、収益面は改善されていない。原木の出材量は1月～2月は増加傾向にあり、3月末の原木在庫は前年と同量を確保できる見込みとなっている。

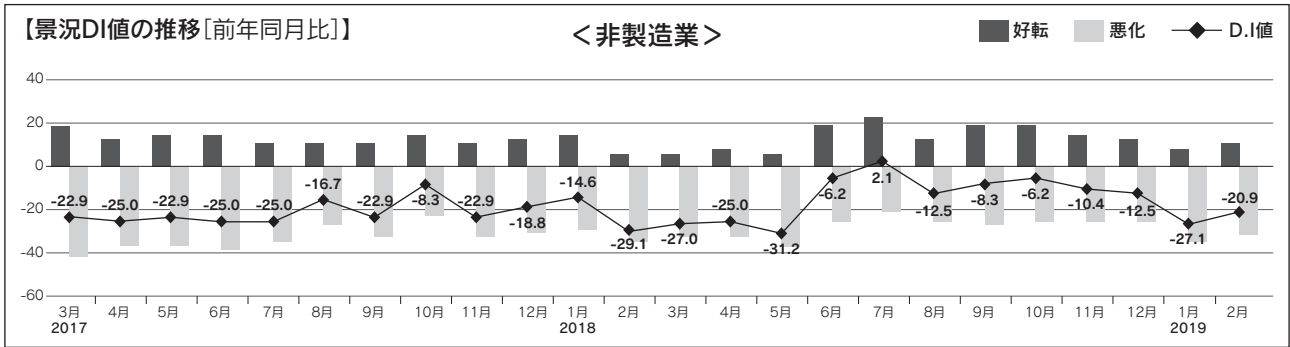
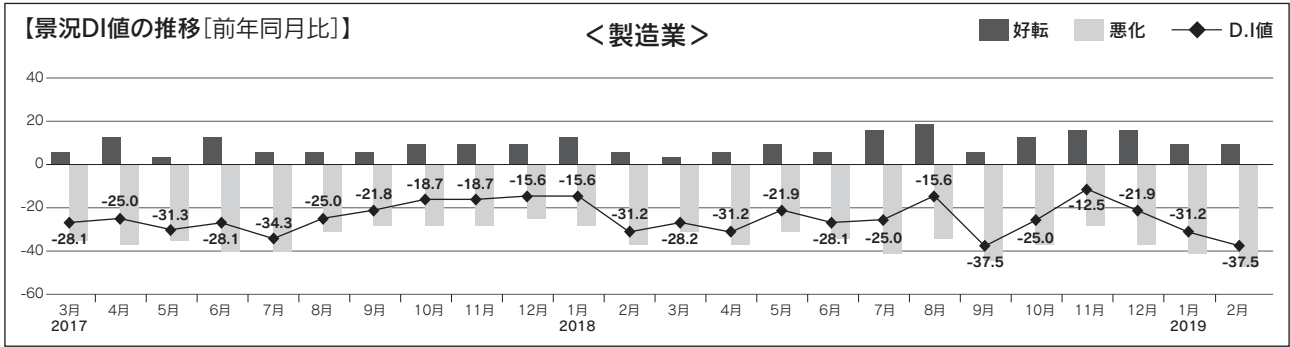
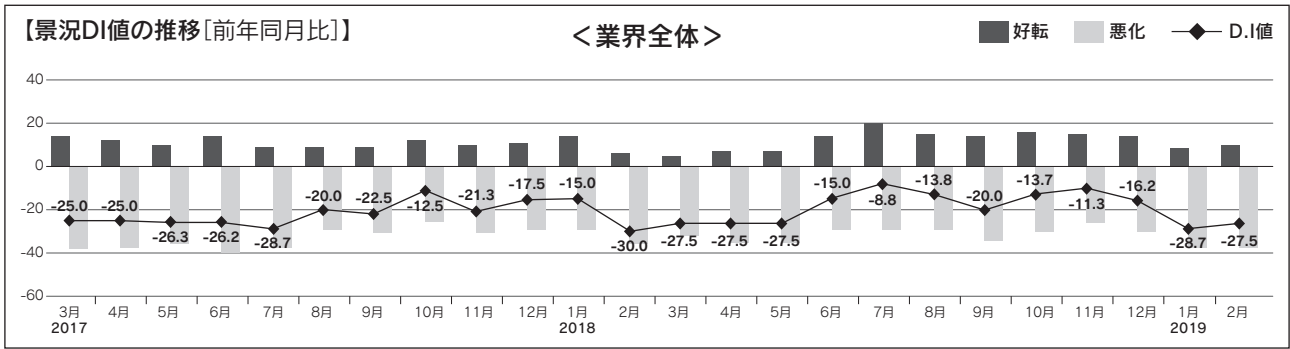
**木材・木製品 (家具)** 秋田県内における需要は極めて少なかった。大都市圏域需要についても昨年と比較すると多くは発生しなかったようだ。年明け1～3月は、例年官公庁と学校等の家具什器の発注が必ず見られたが、秋田県においては木製機の需要が皆無となるなど、秋田市を含む各市町村とも教育施設家具什器の需要はここ7,8年で激減している。

**印刷** 印刷需要の点数・量とも回復をしていない。2月出荷分から用紙・諸材料の値上げが実施されたが、メーカーはエンドユーザーに周知しておらず、値上げ交渉が進まない状況で低価格発注の環境は是正されていない。(中央地区)

**窯業・土石製品 (生コンクリート)** 2月の出荷数量は前年同月比114.8%となり、4月～2月累計では前年比120.6%となった。大館北秋地区では比内養護学校の建設工事により、出荷数量が単月で前年を大幅に上回ったが、依然として能代山本地区の出荷の伸びが鈍い。今年度の出荷数量は660,000m<sup>3</sup>前後(前年比117%)と思われる。

**鉄鋼・金属 (鉄鋼)** 今年に入り受注が落ち込んできており、工場稼働率にバラツキが出ている。この先4～5月頃までは低稼働になるのではと多少不安な状況だが、見積は大小物件を問わず増加傾向にある。

**その他の製造業 (漆器)** 相変わらず顧客の減少が止まらない状況が続いている。関東での催事も昨年より売上が減少し、厳しい状況にある。



【業界の声】 ~非製造業~

(回答数：48名 回答率：100%)

卸売業 (自動車中古部品)	鉄単価が1トンあたり500円の上昇が6回あるなど、2月に入り国内の鉄価格が上昇している。
卸売業 (青果)	売上高は前年同月比88.2%で推移した。2月は関東を中心に農作物が順調に育ち、産地からの出荷が滞ることはほとんどなかった。潤沢な出荷量が影響してか、青果物の相場は安値相場が続伸し、組合員各社とも売上高が低迷している。
小売業 (自動車)	2月の新車販売台数は、登録自動車が2,027台(前年同月比99.6%)、軽自動車が1,854台(同91.9%)で、合計3,881台(同95.8%)だった。車種別では、小型貨物が伸びを見せ、軽自動車はトラックが不調だった。
小売業 (クレジット)	2月期の総取扱高は前年同月比110.0%となった。昨年と比較すると家電量販店の売上高は落ち込んだが、衣料品、宝飾品で上向き、増額となった。(県北地区)
小売業 (石油)	ガソリンの小売価格は1ℓあたり144円50銭で前月比1円、軽油は127円60銭で前月比40銭、配達灯油18ℓは1,618円で前月比59円とそれぞれ値を上げた。2月後半原油価格が上昇し、為替ルートはほぼ横ばいで原油コストによる値上がりとなった模様。
商店街	小売業は業種及び業者間で違いはあるものの総じて前年比マイナスで、収益確保が大変厳しい状況にある。(秋田市)
サービス業 (タクシー)	月の後半に比較的好天が続いたため、タクシー利用が少なく、運行回数及び運送収入は前年同月比でそれぞれ下回った。秋田交通圏(秋田市)では、初乗り額を600円(初乗り距離：1.2km)とする運賃改定を12年振りに実施したが、近距離利用者は増えたものの増収に繋がらなかった組合員もいるようだ。
建設業 (電気工事)	前年同月との比較では多少好転している模様。マイナス金利政策や消費税による影響で一般住宅が増えていると思われる。ただし、物件材料等は大手ハウスメーカーが抑えているので、電材業界や電気工事店は横ばいの状況。(中央地区)
運輸業 (トラック)	2月は例年動きが良くない時期だが、前年より荷動きは良かった。2月の燃料価格は値上がりしているが、収益状況は増加傾向だった。(県南地区)